



日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第35回日本創造学会研究大会

「ひと・もの・ことが創りだす思草 -創造的支援-」



日程:2013年10月26日(土)・27日(日)

会場:日本医療科学大学

※埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276

実行委員長:澁谷貞子(日本医療科学大学教授)

創造とは、ひと・もの・ことが有機的に作用する相互作用のプロセスであり、そこには必ず創り手の思いがあります。江戸ことばの「差し伸べ思草」に現されるように、創造し差し伸べる者の地域や社会・企業・組織に対する行動、行動に込められている思いについて共に考える機会としたいと思えます。初秋の埼玉・小江戸川越方面へのご参加をお待ち申し上げます。



【基調講演】10月26日(土)13:10~14:10

「アジアの人々の自立支援とかものはしプロジェクトの活動」

村田早那香氏 NPO法人かものはし 代表理事



フェリス女学院大学の学生時代に東南アジアの児童買春防止を啓発する活動を開始し、2004年にNPO法人「かものはし」を設立。孤児院支援、買春側を取り締まる警察訓練に対する経済的支援、カンボジア地域における住民の自立支援をアクティブに活動中。

【パネルディスカッション】10月26日(土)14:30~

「挑戦し続ける支援者の思草と創造性」

—パネリスト—

司会進行:田村 新吾氏 (日本創造学会任命理事)

村田早那香氏 NPO法人かものはし 代表理事

活動についての紹介、活動拠点の環境づくり、ボランティア団体形成のプロセス、支援するもの、されるものの相互関係づくりなど、カンボジア等アジア諸国における自立支援について提言する。

原 知之氏 NPO法人川越蔵の会 代表理事

埼玉県の南西部に位置する川越市は、旧市街地が衰退化を迎えた。1980年代町並み景観保存を謳いながら若い商店主が、建築家や市役所若手職員とともに官民一体となったまちづくりについて報告する。

大武美保子氏 千葉大学大学院准教授

2008年NPO法人として認知症予防回復支援に共想法を提唱する。認知症予防と回復のための新しいコミュニケーションについて紹介する。

小山英子氏 日本医療科学大学保健医療学部看護学科教授・学科長

平成24年に開設した看護学科。看護本来の機能である日常生活援助の重要性について、学生の実習での体験を紹介しながら、共に考える機会になればと考える。



【特別講演】笑いヨガ 講師:高田 佳子氏10月27日(土)12:05~13:05

日本笑いヨガ協会代表・株式会社アートランド代表取締役

笑いの体操と呼吸法を組み合わせ、笑いヨガを創る高田氏は、日本の笑いヨガ第一人者です。高田氏による特別講演と実演に皆様ご参加下さい。

(笑いヨガ協会リーフレットより一部抜)

【大会会場】日本医療科学大学 3号棟



【宿泊先紹介】

※個人で各施設へお申込み下さい。

川越周辺への宿泊
「川越プリンスホテル」
TEL:049-227-1111

1泊1食シングルー6,500円～
※人力車に乗り、川越の街並みが楽しめます。「時の鐘」「菓子屋横丁」など小江戸川越をぜひ散策下さい。パネリスト原氏のお店「陶舗やまわ」にもぜひお立ち寄りください。

坂戸駅南口周辺への宿
「SAKADO HOTEL」
TEL:049-284-4111

1泊1食シングルー7,700円～
坂戸駅南口より徒歩3分。会場へはタクシー15分程度。

【27日の昼食ご注文のご案内】 お弁当1000円 希望者は申込用紙にてご注文下さい。

※大学周辺には、飲食店はありますがセブン-イレブン・ファミリーマート等のコンビニはございます。

【懇親会のご案内】 ぜひご参加頂き、創造性についての情報交換の場に。

・会場:和食レストラン「そうま」 坂戸市中富町65-5 TEL:049-288-0112

・会費:5,000円 ※大学から懇親会会場、懇親会後は坂戸駅南口までバス送迎有り。駐車場43台分

第35回研究大会スケジュール(予定)

1日目 10月26日(土)

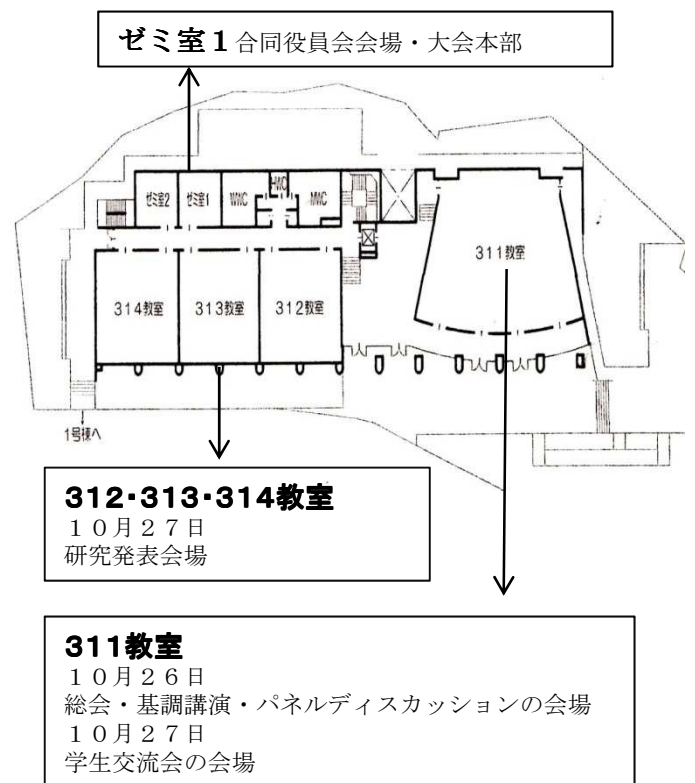
時間	プログラム
12:00~12:50	合同役員会 3号棟1階ゼミ室1
12:00~	参加者受付
13:00~13:10	開会挨拶 理事長 徐方啓
13:10~14:10	基調講演 3号棟1階311
14:30~16:30	パネルディスカッション
16:45~17:30	総会 学会賞表彰式
18:00~20:00	懇親会(大学からバスにて移動)

2日目 10月27日(日)

時間	プログラム
9:45~	受付開始
10:00~12:05	研究発表(発表20分質疑・交代5分) 3号棟1階312・313・314
12:05~13:05	特別講演「笑いヨガ」
13:05~14:00	昼食(希望者弁当)
14:00~15:40	研究発表(発表20分質疑・交代5分) 3号棟1階 312・313・314 学生交流集会 3号棟1階 311

※スケジュールは都合により変更になる場合もございます。

日本医療科学大学 3号棟 1階平面図



◇参加申し込み◇

下記の方法で申し込み下さい。

参加費については、学会ホームページTOPICS欄の第35回研究大会申込用紙にてご確認下さい。申込用紙は下記URLよりダウンロードが可能です。

日本創造学会ホームページURL: <http://www.japancreativity.jp/>

申込書送付先:大会参加申込書をご記入の上、事務局にメール添付またはFAXでお送りください。

送付先: mail: jcs-info@japancreativity.jp fax: 047-314-6380

研究発表スケジュール

A会場

(発表20分、質疑5分)

会場:3号棟312号室

時間	発表者	発表タイトル	所属
10:00~10:25	中川 徹	創造的な問題解決・課題達成の一般的な方法論 (CrePS) -そのビジョン-	大阪学院大学
10:25~10:50	澤泉重一	セレンディピティ活用による創造性開発研究	富山県立大学
10:50~11:15	柴山盛生	生涯学習における創造技能育成授業	放送大学
11:15~11:40	樋口克次	新聞を創造的に活用した大学講義の提案「スマホに新聞を携帯しよう」	名桜大学総合研究所
11:40~12:05	高田敬輔	「商品企画書+仮想カタログ」演習による創造性教育	ワイズ福祉情報研究所
12:05~13:05 特別講演[笑いヨガ]※参加無料 13:05~14:00 休憩・昼食(希望者:弁当)			
14:00~14:25	兼田麗子	CSVと日本における経済・倫理両立の系譜	早稲田大学日本地域文化研究所
14:25~14:50	羅玲玲	Conflicts between the Characteristics of Different Countries' Creative Technique and Chinese Culture	中国東北大学
14:50~15:15	徐 方啓	「クール・ジャパン」と日本創造学会の社会的役割	近畿大学
15:15~15:40	安平哲太郎	歴史的残骸の中の誤謬が創造的知識獲得の予兆であるための条件について —科学的思考に伴う誤謬についての—考察—	未来創造研究所

B会場

(発表20分、質疑5分)

会場:3号棟313号室

10:00~10:25	村井陽介	資格とアイデアマラソンの創造性教育のコラボレーションについての研究	TAC株式会社
10:25~10:50	國藤 進	能美ミニ移動大学2012	北陸先端科学技術大学院大学
10:50~11:15	西浦和樹	対人援助行動を考慮した共感性尺度の開発 レジリエンスはホスピタリティと関連するの	宮城学院女子大学
11:15~11:40	樋口健夫	幼稚園児向け「どるふいん」アイデアマラソンの開発とその効果測定	北陸先端科学技術大学院大学
11:40~12:05	吉行郁美	昔話“桃太郎”からみる創造	日本医療科学大学
12:05~13:05 特別講演[笑いヨガ]※参加無料 13:05~14:00 休憩・昼食(希望者:弁当)			
14:00~14:25	塩田真吾	小学校の各教科における創造性教育の実践と効果の測定	静岡大学
14:25~14:50	弓野憲一	小学校5・6年用PC英語学習プログラムの開発	弓野教育研究所
14:50~15:15	三原康司	若年層へのイノベーション目的展開法 短時間教育の有効性	静岡理工科大学
15:15~15:40	酒井郷平	学校教育での創造性教育の実施に向けた基礎的調査 —教員経験者・学生の創造性教育の実践及び実践イメージの考察—	静岡大学

C会場

(発表20分、質疑5分)

会場:3号314号室

10:00~10:25	富田欣和	「システム×デザイン思考」を用いた創造性教育手法 —高等教育および中等教育への適用事例—	慶應義塾大学大学院
10:25~10:50	山本由加	創造性の観点から見た環境教育プログラムの定量的評価の試み	NPO法人しずおか環境教育研究会
10:50~11:15	今泉友之	構造シフト発想法—思考の構造化と戦略的強制連想に基づく発想法—	慶應義塾大学大学院
11:15~11:40	篠田結衣	幸せカルタを用いた幸福システムデザイン法	慶應義塾大学大学院
11:40~12:05	櫻井敬三	用途テストの柔軟性評価方法の綿密化	日本経済大学大学院
12:05~13:05 特別講演[笑いヨガ]※参加無料 13:05~14:00 休憩・昼食(希望者:弁当)			
14:00~14:25	小出実	特許情報による共同体の成長および共創プロセスに関する研究 —マエカワの共生菌「エンドファイト」事業の事例研究—	株式会社オプトクリエーション
14:25~14:50	片岡敏光	ビジネス関連発明に見る量質転換の考察	(株)パットブレーン
14:50~15:15	ウィリアム リード	Study of the Effects of Handwriting on Creativity	EMC Quest Corporation, KK
15:15~15:40	姜 理恵	10年目のクリエイティブシティ —仙台、横浜、神戸の事例から—	早稲田大学

■ 第26回創造性研究会報告 ■

創造性教育に関する実践的研究
—小学校における創造性教育の実践と効果の測定—

講師： 弓野憲一 日本創造学会会長 静岡大学名誉教授
塩田真吾 日本創造学会会員 静岡大学教育学部専任講師



10数年前に「総合的学習の時間」が新設されたとき、教育目的として「生きる力の育成」が掲げられた。しかし「生きる力」が「創造性」を含むコンセプトであるとする明確な定義はなかった。そのために「問題の設定」や「解決」を目標とした「生きる力」は単なる「元気」や「がんばる」という言葉に置き換えられて指導が行われてきた。

学習には「学び」と「創り」がある。東洋や日本では「学び」に重点が置かれ、「正解」を求める指導が長年行われてきた。それゆえ、教師が創造性を意識するのは、図画工作や総合的学習程度であり、英国のように全教科を通じて創造性を育てるとする指導はほとんど行われていない。そこで弓野、塩野らは、研究者、大学生、院生、小学校教員、NPOなどからなる「学校創造性教育研究会」を立ち上げ、小学生を対象に創造性に関する実験教育を開始した。創りには「私」が強く関わることで、創りを奨励する中で出現する個々の所産がその子の創造性であること、そして、誉めることで創造性は伸び、失敗と試行錯誤がその子を強くさせるとの要点が報告された。

実例として、千葉県の小学校の協力を得て、アイデアに対する意見、考える必然性、出題者になって問題文を作成するなど、積極的に工夫を奨励し、さらに創造性を伸ばす誉め方などをクラスに導入することによって、一応の成果が出始めている。主な評価法として、1. 創造的態度、2. 創造的行動、3. 自尊感情などの評点評価が紹介された。創造的授業力として、1. 創造的教育への興味の喚起、2. 創造技法の理解、3. 創造的授業の意欲の喚起が必要と指摘した。今後は、学校教育以外の子供の学びにもメスを入れることと、教員、教員養成の場に創造性教育の意識を高めていきたいとの抱負を語った。

会場の会員からは、学外での類例、英国での結論が不定の授業例などが紹介された。また、成功事例を重ねることで、文科省に意識を持たせるべきなど、現実的方法について助言があった。

2013年5月6日日本経済大学（渋谷）にて開催
（報告：田村新吾任命理事）

日本創造学会論文誌Vol.16(2012) 論文賞受賞者

2012年度日本創造学会論文誌Vol.16における論文賞は下記の方々を受賞されました。学会賞授賞式は10月26日(土)研究大会開催時に行われる会員総会にてとり行われます。

論文タイトル： 2×2欲求マトリクス -心理的価値に基づく利他的コンセプト創出法-
筆 者： 麻生陽平、白坂成功、保井俊之、前野隆司
所 属： 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

論文タイトル： TTCT創造性テストによるアイデアマラソン研修の創造性開発効果の分析
筆 者： 樋口健夫、由井蘭隆也、宮田一乗
所 属： 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科

■ 第27回創造性研究会報告 ■

「国際ビジネスによる日本語の普及と価値観の共有」
—オフショアビジネス、日本語のできる外国人ビジネス人材の育成、
外国人との遠隔授業—

講師：伊藤征一氏 日本創造学会会員



（こりゃ何だ。この先生は何を言い出されるのか）と、正直言って、始まったとたん思った。

「国際ビジネスで日本語だけで通用させる。ここでは英語は不要だ」と、発表者が言い始めたからだ。この言葉に私は席を蹴って退場しようかと、一瞬思ったほどだ。思い直して、腕まくりして（質問時間に迫及していこう）と決意して座り直した。

日本創造学会の2か月に一度の創造性研究会（7月6日）のゲストスピーカー元星城大学教授の伊藤征一先生の講演が始まった時だ。タイトルは、「国際ビジネスによる日本語の普及と価値観の共有」という講演だった。

退席しなくてよかった。

話が非常に面白かったのだ。IT関係や財務経理・人事部などの事務処理業務のアウトソーシングやデータ入力、各種のコールセンター関係で、日本語でなければできない仕事が中国、ベトナム、インドでどんどん始まっているという話だった。ITソフトの開発でも、日本語だけで海外で開発が可能なところまで、環境が揃いつつあること、更には商品などのコールセンター、商品の問い合わせや、通販の受注まで、海外で立派に、安く、大規模に進めることができるという現状を聞いて、「なるほど日本語でなければ、それも立派な日本語でなければだめだなあ」と、納得したのだ。

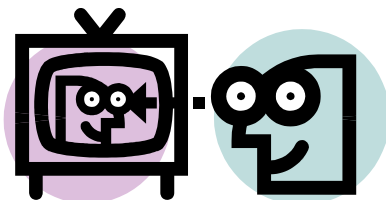
私たちが電話した相手を、日本人だと思っていなくても、実はベトナム人であり、ベトナムに電話しているということが起こっているのだ。

私がベトナム・ハノイに駐在していた当時、ベトナム人の語学習得能力の高さには本当に驚いていた。ハノイの大学には日本語科があったが、卒業しても、日本語で就職できる学生が少なかった。ところが、このITソフトやコールセンターでは、まともに日本語を使いこなすことを要求され、まさに日本語科の卒業生にとっては、素晴らしい学卒の吸収企業となっていることが、まさに時代の変化だと思った。

ところがこの伊藤先生のユニークなのは、アカデミックに海外での日本語ビジネスの現状を調べるだけでなく、自分でも海外の日本語を学ぶ学生たちを積極的に日本から遠隔講義で指導を開始したことだ。私より多少年配の伊藤先生、日本の自宅でスタジオを作り、中国人、ベトナム人への日本語教育を開始したのだった。すごい、面白い。

先生の説明で、印象に残ったのは、ベトナムのキヤノンのデジカメ工場で数千人の工場の作業員を雇用していることも大事かもしれない。しかし、日本語を完璧に話す数十人、数百人の大学卒の仕事を海外で作り出すことは、更に重要な未来の日本との関係を作るのではないだろうかということだった。

先生は何度も中国やベトナムを訪問し、現地の企業や学生たちを積極的に指導しようとしてきた。その馬力はすごい。惜しむらくは、先生はこれをほとんど自前、自分のポケットマネーでやってきたことだ。まだ、先生はビジネスモデルとして完成できていないことだ。たぶん、海外での日本語のエキスパート育成には、日本の大手企業は大きな関心を持つだろうと思うから、伊藤先生は、これらの日本の企業と一緒に進めれば、ビジネスとしても成り立つのではないかと思った。英語は要らないという先生の肩書が「エデュケーション・プランナー」だから茶目っ気があり面白い。とにかく、元気で最先端の領域を走り回る伊藤先生の話聞いて、本当に感動した。



2013年7月6日近畿大学東京事務所（四谷）にて開催
（報告：樋口健夫理事）

第12回国際アントプレナーシップフォーラムについて

理事長：徐 方啓

第12回国際アントプレナーシップフォーラム（12th International Entrepreneurship Forum conference）は、2013年9月4日から6日かけてリトアニア首都ヴィリニウスで行われました。

同会議は、イギリスエセックス大学アントプレナーシップ研究センターが主催し、OECD（経済協力開発機構）中小企業と地域開発局が協賛し、毎年世界各国で持ちまわります。今年のホスト役はリトアニア陸軍士官学校（Military Academy of Lithuania）です。また、同会議は創造性研究と緊密に関連し、毎年創造性分科会を設けているので、私は積極的に参加しています。

9月2日の朝、私は羽田発の便で出発し、中部国際空港でフィンランド航空の便に乗り換え、約10時間後、ヘルシンキ空港に到着し、もう一回乗り換えて、現地時間午後6時（日本時間午後12時）ヴィリニウスに着き、その後タクシーでホテルにチェックインしました。丸18時間の長旅、なおかつ6時間の時差もあるので、9月3日の午前は寝坊、午後は国際会議が行われる会場を下見に行きました。

歓迎レセプションは9月4日午後同士官学校で行われ、参加者はワイングラスを手にしながら名刺交換をしたり、歓談したりして、和やかな雰囲気でした。

9月5日の午前9時から正式な会議が始まり、同士官学校長が歓迎の挨拶をした後、リトアニア共和国大臣アリミナス・マッキュリスがEU2013年議長国の立場から、持続可能な経済と社会結束力をテーマにする基調講演を、OECD（経済協力開発機構）中小企業と地域開発局アントプレナーシップセンター長サージオ・アーゼニが公共政策と持続可能なアントプレナーシップをテーマにする基調講演をそれぞれ行いました。続いて、三つのパネルセッションがありました。その後、四つの会場に分けて口頭発表を行いました。

9月5日の夜は、懇親会でした。郊外にある旧貴族の別荘が会場で、極めて和やかなで、同時に神秘さを感じる雰囲気の中で、多くの参加者と交流が出来ました。

9月6日も会議でした。二つのパネルセッションの後、四つの会場で口頭発表がありました。私は、「創造性、文化と持続可能なアントプレナーシップ」というグループに属し、質疑応答を含め、「日本におけるクリエイティブ産業」をテーマにする発表を30分行いました。その後、主催者のイギリスエセックス大学ビジネススクール国際アントプレナーシップ研究センター長のジャイ・ミトラ教授は、今度の会議について総括的なコメントを述べ、またベストペーパーの受賞者（エセックス大学大学院後期課程の大学院生）を公表した。午後5時半頃会議が閉幕しました。

今回の会議は、昨年のマレーシア会議に比べると、交通が不便かも知れないが、参加者が減り、17カ国から60人が集まり、28本の論文を発表しました。日本からの参加者は、私以外に、駿河台大学の高垣行男教授と立命館大学のある先生も参加しました。それにもかかわらず、スポンサーが増え、論文を募集するジャーナルが4つになりました。

それでは、なぜ陸軍士官学校はホスト役になったのかという疑問を解きましょう。リトアニアは1991年旧ソ連から独立し、また2004年にEU加盟を実現した後、大勢の士官が退役になりますが、この人たちの進路について、大変な問題になるので、士官学校は国際会議の力を借りて学生の創業を狙っているからです。



写真1：発表風景



写真2：1579年設立したヴィリニウス大学のタワーから見た旧市街の風景

創造性教育の泰斗 “シドニー・パーンズ先生” を偲ぶ

アメリカの創造教育財団の2代目理事長、シドニー・パーンズ先生(Sidney J. Parnes)が2013年8月19日に逝去された。御年91歳での大往生である。謹んで哀悼の意を表したい。

パーンズ先生はブレインストーミングの創案者アレックス・オズボーン先生(Alex F. Osborn)の一番弟子である。先生は創造教育財団(CEF: Creative Education Foundation)を、1954年にオズボーン先生と共に創立し、2代目の理事長に就任している。

創造教育財団は米国の創造性教育のメッカとして、創造的問題解決大会(CPSI: Creative Problem Solving Institute)を1955年に開催した。大会は毎年2回、春と秋に約5日の日程で開催され、毎回500人から1000人もの参加者を集める。参加者は大学生、学校教師から創造性研究者、大学教員、そしてビジネスマンまで多岐にわたる。アメリカのみならず、世界各国から、また日本からも多くの方々が参加された。単なる講演会ではなく、講演、研究発表、研修と内容は多岐にわたる。ヨーロッパやアジアの創造性研究者たちのほとんどはこの大会で学んでいる。また同じ1955年には財団の機関紙「創造行動ジャーナル」(The Journal of Creative Behavior)も発行。以来、58年にわたり世界の創造性教育界をリードしてきた。

またニューヨーク州立大学(New York State University of Buffalo: ニューヨーク州の首都バッファロー市に在)の教授となり創造性教育で世界初の学部を創立し、創造学を学ぶ学生を数多く育成してきた。こうしてオズボーン先生亡き後、アメリカの創造性教育を長年牽引されてきた。

著書は Creative Behavior Workbook (1967)、Creativity : Unblocking human potential (1972)、The Magic of Your Mind (1981)、VISIONIZING (1988)等。

編著は創造性研究のバイブル的な Source Book For Creative Problem Solving (1992)など、また共編著には Creative Actionbook (1976)、Guide To Creative Action (1977)等、またテイラー博士(C.W. Taylor)との共著等、多数ある。

パーンズ先生と私との関わりは、1977年6月に本学会が創造的問題解決大会参加のため組織した米国・創造性研究調査団に始まる。この団は当時本学会の恩田彰理事長(現名誉学会長)が実行委員長となり、比嘉佑典理事(現名誉学会長)、など総勢5人が参加した。創造性研究調査団に始まる。この団は当時本学会の恩田彰理事長(現名誉学会長)が実行委員長となり、比嘉佑典理事(現名誉学会長)など

総勢5人が参加した。私も、事務局長として参加し、初めて先生にお会いした。以来35年にわたるお付き合いが始まった。その後、1985年8月に初来日の先生の講演会を企画・主宰した。東京では産能大学の主催で、また富山では富山県教育委員会が主催の講演会を実施した。以来、訪米の機会には先生とベア夫人(Bea Parnes)とお会いし親交を温めてきた。2003年9月にドイツのマインツで「欧州・創造と革新大会」が実施された。この大会は当時理事長の私や比嘉現名誉学会長、徐方啓現理事長、柴山盛生理理事など4名が参加し、先生とも交流した。

最後にお会いしたのは2007年2月である。引退された夫妻をアメリカ・サンディエゴ市にある高齢者マンションの自宅に訪問し、たのしい歓談の時間を過ごした。今でもその時のお二人との会話が懐かしく思い出される。

世界の創造性教育の発展に尽くされたパーンズ先生がこの世を去り、大変悲しく思います。先生どうぞ安らかに眠ってください。

(理事: 高橋 誠)



2003年9月、ドイツのマインツでの「欧州・創造と革新大会」でパーンズ博士夫妻とドイツ創造学会会長のメルホーン博士(左端)、右上が筆者



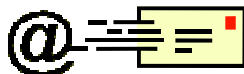
2007年2月、アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴ市の夫妻のお住まいでパーンズ博士夫妻と筆者

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

(個人情報が含まれるため、Web版では削除いたしました)

2013年度会員総会のお知らせ

2013年度総会は、10月26日(土)午後4時45分より、日本医療科学大学にて開催されます。会員の皆様に往復はがきで案内状を発送致しましたので、出欠の返信を10月5日までに投函いただけるよう、ご協力お願い申し上げます。会員総会は全員参加が基本となります。都合により参加できない場合は、必ず返信用はがきの委任欄に記入の上、投函して下さい。



学会事務局のアドレスが変わりました。

※登録の変更をお願い致します。

変更前のアドレス
jcs@soken-ri.co.jp



変更後のアドレス
jcs-info@japancreativity.jp

事務局メッセージ

今回の大会は日本医療科学大学で開催されます。医療・看護系の大学ならではの開催テーマで、創造的支援のあり方について、色々な角度から考えて行けるのではと思います。

懐かしい佇まいの川越の街も魅力的です。多くの皆様の参加をお待ちしております。

(事務局：比嘉)

日本創造学会 ニュースレター

2013年9月発行 (No.3)

日本創造学会事務局

発行人：徐方啓

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0015 千葉県市川市鬼高4-7-6-816

Tel 080-3465-6152

Fax 047-314-6380

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp

http://www.japancreativity.jp/